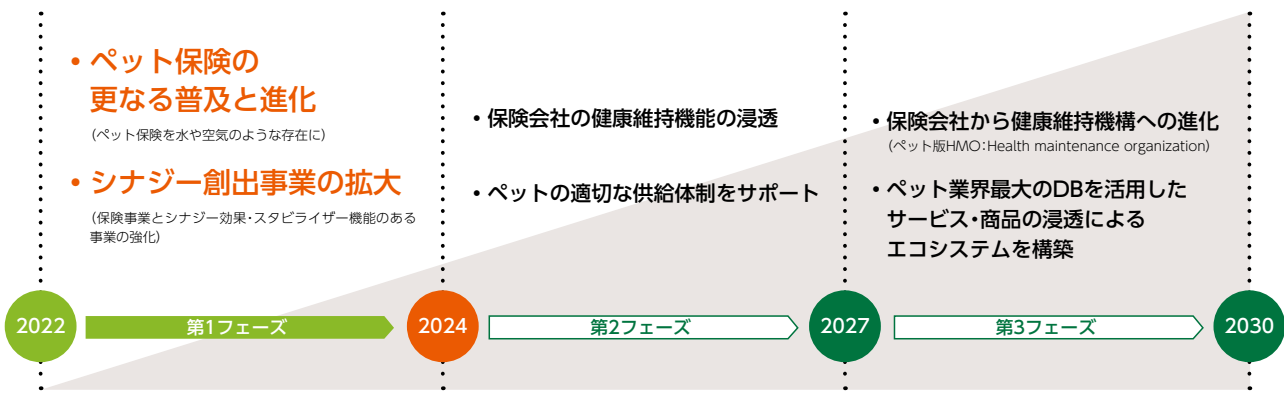


中期経営計画

2022年から2024年までの3年間については、2030年度の第二期創業期完了を見据えた経営ビジョン実現に向けた基盤を構築する第1フェーズと位置付け、資本・リスク・リターンのバランスを取りながら、株主還元の見線も重視するフェーズに転換します。経営指標としては、連結経常収益、連結経常利益、連結ROE、株主還元、シナジー創出事業売上高比率、アニコム損保単体ソルベンシーマージン比率の6つを設定しています。これらの指標は、中期経営計画にも掲げており、こうした目標を達成することを通じて、企業価値の向上を目指していきます。

2024年度においては、ペット保険の更なる普及と進化、及び保険事業とのシナジー創出事業（保険事業の支援とスタビライザー機能の強化）の拡大を通じて、ペット業界の発展と社会発展が同調するサステナブルな業界へ変革させ、同時に当社グループの着実な利益成長と資本効率の向上を進めてまいります。また、これらを支えるデータ収集基盤の活用と、特許を含めた知財化をより一層推進し、中・長期的な持続的成長を目指していきます。

2030年度ビジョンに向けた2022-2024の位置付け



2030年度ビジョンの実現へ

どうぶつ業界における川上から川下までを
発展的に繋ぐインフラプレーヤーとして無限大の価値を社会に提供する

基本戦略の概要

あらゆる個別施策を相互に連携させる「戦略ミックス戦略」を基本戦略とします。

ペット保険の更なる普及と進化
(ペット保険を空気や水のような存在に)

1. 保険の独自性追求
2. 保険金の削減、損害率改善
3. 保険獲得コストの削減(代手・広告費等の削減)
4. オペレーション改善(販管費削減)



保険事業とのシナジー創出事業の拡大
(保険事業の支援とスタビライザー機能の強化)

1. ヒト、モノ、カネ、データ、科学、医療をフル活用したブリーディングサポートの更なる強化
2. 動物病院事業の拡大(保険金とのスタビライザー)
3. 健康イノベーション事業の拡大(健康へのコミット)
4. 再生医療を含めた先進医療の展開(予防的、高齢化対策)
5. 資産運用を活用した、共生不動産事業の拡大
6. 「検索・予約」の強化(アニレセ強化、みんぷり強化など)





これらを支えるデータ収集基盤活用(どうぶつ住民基本台帳構想)、特許を含めた知財化
血と汗と涙をダイヤモンドに

主要経営数値目標/KPI

(1) 連結

2023年度は堅調なペット飼育需要を新規契約獲得に着実に繋げ、契約獲得コストの改善等を行ったことにより、経常収益は604.3億円、経常利益は41.5億円といずれも過去最高を更新いたしました。その他の項目についても、項目ごとに進捗の強弱はあるものの、中期経営計画の2年目として、全体ではインラインの状況となっています。

	2022年度実績	2023年度実績	2024年度目標	2030年度ビジョン
連結経常収益	565.2億円	604.3億円	660億円	1,000億円水準
連結経常利益	36.8億円	41.5億円	48億円	100億円水準
連結ROE	8.2% (前年8.0%)	9.4%	10%	12~15%水準
株主還元 (配当性向)	14.2% (前年9.6%)	16.2%	20%	DOE4%水準
シナジー創出事業 売上高・売上高比率	49.1億円 8.7%	54.3億円 9.0%	72億円 11%	20~25%水準
単体SMR (ソルベンシーマージン比率)	373.1% (前年393.5%)	323.7%	320%	—※

※中期的な保険の健全性に係る規制(リスク係数等)見直しの議論が進んでおり、今後の見直しを見据えた対応を検討中。

(2) 保険事業/シナジー創出事業

保険事業については、通院頻度の高止まりや診療費単価の上昇もあり、損害率が計画比やや高めで推移しましたが、契約獲得コストの改善など、販売管理費の削減が奏功し、事業費率は計画を達成しました。その結果、コンバインド・レシオについては、損害率の上昇を事業費率の改善でカバーし、順調な進捗となっております。

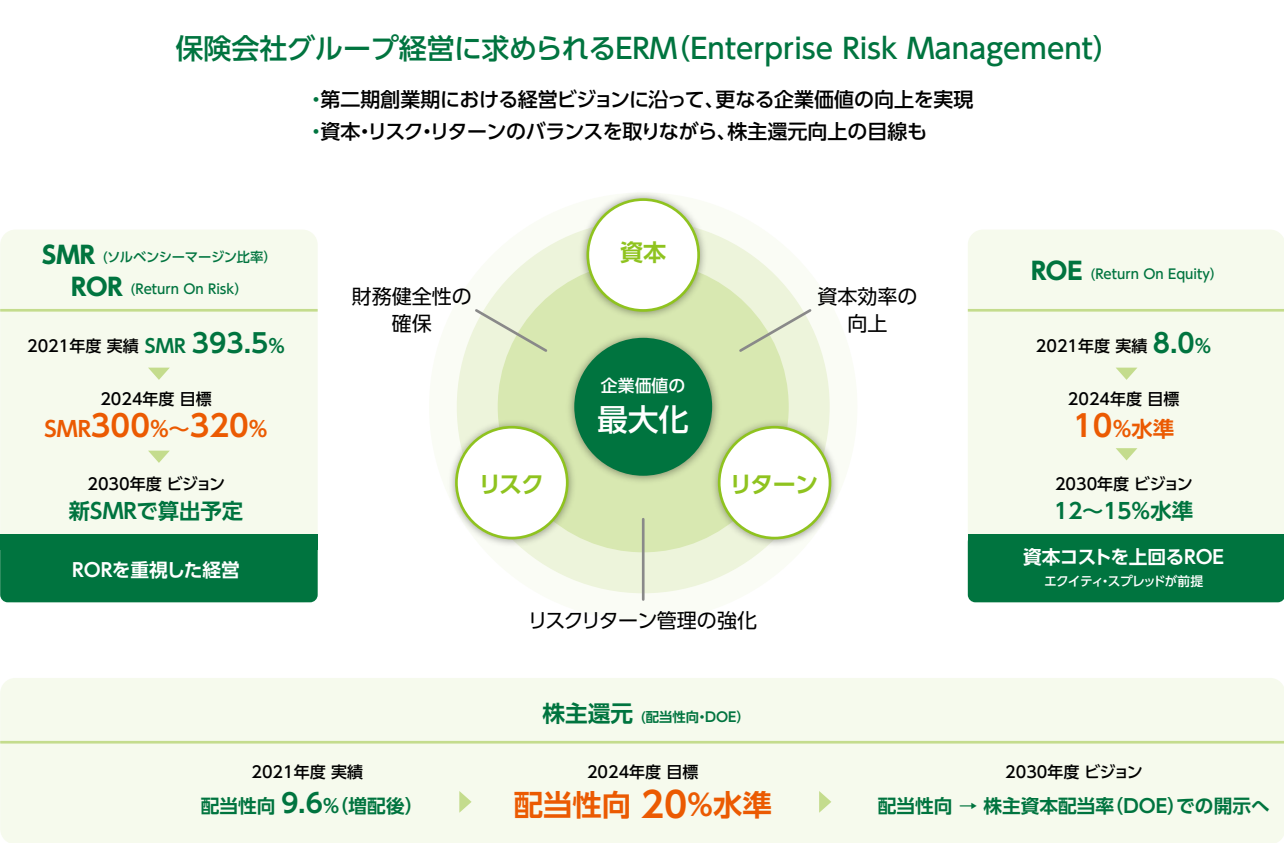
シナジー創出事業については、2024年度に向けて、健康イノベーション事業における口腔・腸内ケア商材の売上を拡大し、病院事業の黒字化を目指しています。

	2022年度実績	2023年度実績	2024年度目標
保険事業			
損害率	58.9% (前年58.1%)	59.9%	60.9%
事業費率	34.9% (前年36.7%)	33.3%	32.3%
コンバインド レシオ	93.8% (前年94.8%)	93.2%	93.2%
シナジー創出事業			
遺伝子検査検体数	9.2万検体／年	6.7万検体／年	6.5万検体／年
腸内細菌叢検査 申込数	21.1万測定／年	22.0万測定／年	25.2万測定／年
健康イノベーション 事業売上	0.63億円	1.76億円	8億円
病院事業※	売上 : 17.6億円 のれん償却後利益 : ▲2.6億円	売上 : 18.7億円 のれん償却後利益 : ▲1.7億円	売上 : 22億円 のれん償却後利益 : 0億円

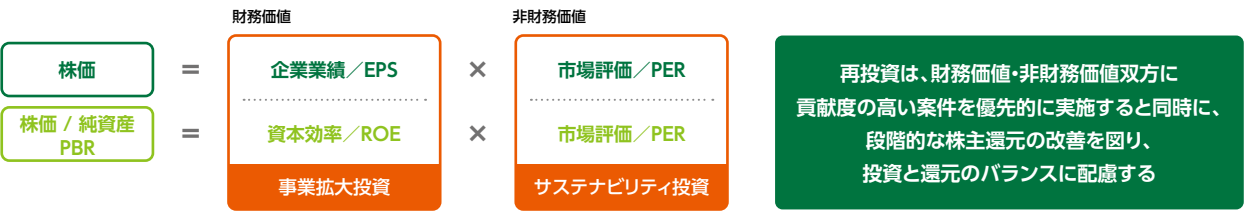
※過年度を含め、間接部門経費配賦後の数値を記載

財務方針

キャピタル・アロケーション



適切な資本配分の実施により、株式市場に「社会的課題を解決しペット業界を主導する企業」と認識されることで、財務価値+非財務価値での市場評価(PER)及び企業価値向上に繋げる

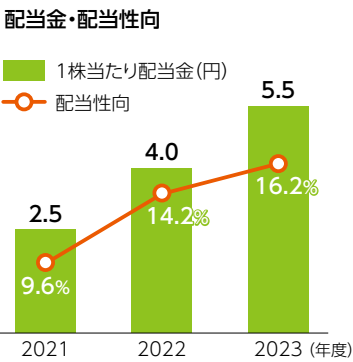


株主還元

アニコムグループでは、株主に対する利益還元が経営課題のひとつであるとの認識のもと、財務健全性と資本効率を踏まえ、中長期的な視野から、継続的・安定的な利益配分を行っていくことを基本方針としています。

「中期経営計画2022-2024」においては、第二期創業期における経営ビジョンに沿って、更なる企業価値の向上を実現すると同時に、資本・リスク・リターンバランスを取りながら、段階的な株主還元の改善を図り、2024年度に向けて配当性向20%水準を目指すこととしています。

なお、2023年5月に発表した株主還元方針の修正に伴い、修正された「ソルベンシー・マージン比率」を前提に、適正と考える資本水準を超える約40億円については、2023年度に約10億円の自己株式の取得を完了し、2024年5月から残りの約30億円の自己株式取得を開始しています。



成長投資

投資リターンの向上と、資本規制見直し、リスク係数も踏まえ、新たに創出されるリスク量を勘案し、再投資、事業拡大投資+サステナビリティ投資を行っていきます。再投資は、ブリーディングサポート・動物病院・フード等の事業を早期に軌道に乗せるべく重点配分をしながら、中長期的な企業価値の向上を図ります。

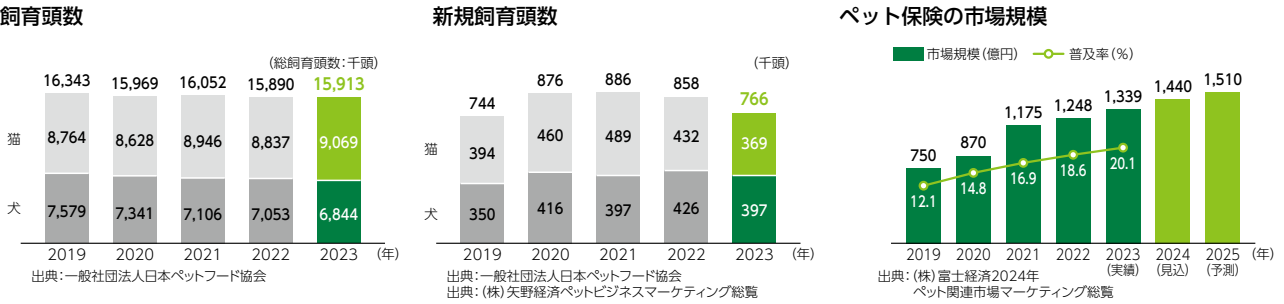
シナジー創出事業目標

主力事業であるペット保険事業に対してシナジー効果のある事業・サービスを「シナジー創出事業」として位置づけています。単独での収益化のほか、ペット保険の他社との差別化や保険金のスタビライザー効果などにより、グループ全体の収益力向上に寄与することを期待しています。2030年度には売上高比率を連結の20~25%水準まで拡大することを目標として掲げ、規模拡大に向けて取り組んでいます。

保険事業

環境認識(リスクと機会)

- コロナ禍における特需的な飼育需要は落ち着きを見せるが、引き続き堅調
- 大手企業等の相次ぐペット保険業界への参入
- 動愛法規制強化後、ブリーダーとペットショップの業態融合による流通革命の加速
- 動物病院の通院頻度の増加と診療費単価の上昇



強 み 課 題

- 6,879件の窓口精算対応病院
 - NBチャネルの高いシェア
- 保有契約件数119万件超のデータベース
 - 15年連続シェアNo1
- 損害率の高止まり
 - マーケットシェアの低下

取組み

新規・保有契約の状況

新規契約獲得件数は2023年度年度間で**22.3万件**超
2024年3月末時点の保有契約件数は**119万件**を突破

商品・サービスの拡大

「どうぶつ健活」の堅調な増加が寄与し、年間の継続率は**88.2%**と安定して高いレベルで推移

販売チャネルの拡大・強化

- シムネットとの連携強化により、ブリーダーチャネルにおける新規契約獲得も拡大中
ブリーダー代理店数:
2024年3月末時点は1,032軒に拡大、保険付保率も向上中(2020年9月末時点は91軒)
- 法人代理店を中心とした販売チャネルの更なる拡充を推進中
- WEB広告の強化による獲得件数への寄与が拡大

損害率、契約獲得効率、販売管理費率の改善施策

損害率(2023年度実績:59.9%)
コロナの影響は落ち着きつつあるが、保険金は注視を継続
損害率改善施策を引き続き推進中
・保険診療推奨フローチャートの普及促進による診療の適正化
・予約機能を活用した優良病院への送客強化

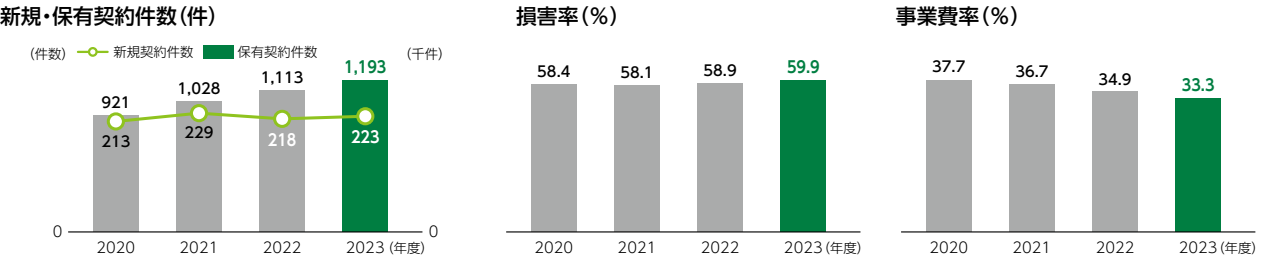
諸手数料及び集金費率(2023年度実績:10.0%)
販売チャネルの拡大・多様化等による契約獲得コストの改善を継続

販売管理費率(2023年度実績:26.1%)
契約獲得コストの改善やオペレーション改善等により、前年対比で1.1ptの改善
・給付業務における直接請求件数及び処理単価の削減
・各種手続きの省力化、帳票コストの削減

販売チャネルの拡大・強化を通じて、保険事業における効率性向上・費用改善を推進

⇒ **リアルとネットの融合を強力に推進しながら、効率的に契約を獲得**

KPI



資産運用

環境認識(リスクと機会)

- 保険会社グループとしての財務健全性と収益の安定性を両立するため、資本市場のリスク(流動性リスク、金利リスク、価格変動リスク、不動産リスク、為替リスク、資産集中リスク)等をモニタリングし、年度の投資方針に基づき運用
- 有価証券運用に関しては、当社事業が日本国内を中心とすることを踏まえ、日本国内の債券、株式等を中心としつつ、ROR(Return on Risk)の観点より、市場環境が魅力的であると判断した場合には、為替リスクをコントロールしつつ海外への投資を実施
- 不動産への投資及び事業投資においては、ペット保険及び動物医療における知見に基づき、シナジー効果の期待できる案件に選別投資を実施

強 み

- 不動産運用では、「人とどうぶつが共生する持続可能な社会の実現」をコンセプトに、付加価値の高いペット共生賃貸住宅の開発、社会貢献活動にかかわる施設を提供
- ペット保険における実績データやどうぶつ医療にかかわる豊富な経験と人材を活かしてペット医療あるいはペットと暮らす人々にシナジー効果のある共同事業に出資

課 題

- 資産運用においても2025年の新SMRへの移行後のリスク管理方針に基づくリスク量の管理を行う必要があり、資産運用におけるリスク管理態勢の強化を図っている。財務健全性を維持しつつ、RORの観点から適切な水準のリスクを取った資産運用を目指す。

取組み

- ペット用がん検査で提携したHIROTSUバイオサイエンス社への出資等
- 動物愛護推進に向けた複合施設「しっぽの郷」をオープン(シェルター・ブリーディング場・ドッグカフェを併設)
グループ各社のリソースを活用し、動物愛護の更なる推進に向けた活動を進めるとともに、石川県の国際ビジネス学院と連携し、ペット業界の未来を担う人材育成・学校教育の場としても活用
- ペット共生住宅「アニコフロア東中野」は好評満室稼働中



その他の事業

取組み

- 「従業員一人一特許戦略」の推進
2024年3月末 発明者数127名(2020年12月末 発明者数13名)

【分野別 特許件数】※2024年3月末時点

	画像認識AI	遺伝子 フード・腸内細菌叢	再生医療	その他	合計
特許件数	7	6	2	3	18

【2024年3月期に取得した特許の例】
特許7330258号「感情判定システム及び感情判定方法」
特許7437479号「保険料算出システム、保険料算出方法及び負担予測方法」

特集: シナジー創出事業

ペットの健康に影響を与える

ペット × 保険 × 医療 による価値創造

すべての疾患は、「先天的要因」と「後天的要因」の2つが複合的に関与することで発症すると考えています。

ペットは人間による近親交配の結果、遺伝的な弱さを背負うこととなりました。

これが「先天的要因」です。

また、ペットは自ら食事を選んだり散歩に出かけたりはせず、飼い主様が「後天的要因」たる“環境”を用意しています。

さらに「後天的要因」は、食事の不適合や不適切なケアなどの「直接的要因」と、

経済的・心理的ストレスなどの「間接的要因」に分けられますが、

ペットの場合は「直接的要因」の影響が大きいと考えられます。

このため、アニコムグループでは、日常生活の中で介入が可能となる

「後天的要因」かつ「直接的要因」にフォーカスし、

ペットの健康をサポートするための価値創造を進めることを目指します。



3つの軸で ペットの健康にアプローチ

アニコムグループでは、歯周病予防に着目した口腔ケア、
免疫力のバロメーターとされる腸内環境に着目した腸内ケア、
遺伝的脆弱性を補完するための遺伝ケアを軸として、
どうぶつの健康にアプローチしています。

口腔ケア

APPROACH 1

- 万病の元となる歯周病の存在
- 口腔ケアによる予防、加療促進効果
- 革新的なソリューションの提供

腸内ケア

APPROACH 2

- 腸内細菌の多様性向上
- 病気の早期発見と健康管理
- フードの開発、事業化

遺伝ケア

APPROACH 3

- 再生医療の提供
- 幹細胞投与によるQOLの改善

ORAL CAVITY

INTESTINE

GENES

APPROACH 1

口腔ケア戦略

口腔内環境を整えることの重要性は人でも認識されていますが、

ペットでも同様です。特に歯周病は万病の元といわれており、

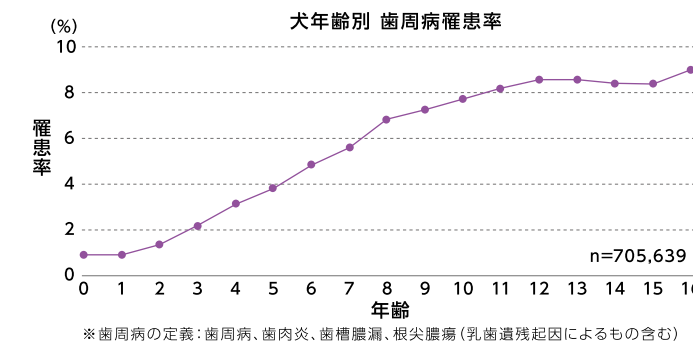
幼齢期からの口腔ケアが重要であると考えています。

日々の口腔ケアを通じて、将来の重篤な疾病発症予防の実現を目指します。

歯周病は万病の元

「歯周病は万病の元」。人の医療では広く認知されているものですが、実はペットでも同様だったのです。

歯周病原因菌等は腫れた歯肉から容易に血管内に侵入し全身に回り、歯周病原因菌自体や菌が産み出す毒素が常に体中を巡ることにより、全身性の免疫低下を引き起こします。この結果として、様々な病気の治りの遅さ、もしくは、病気の原因そのものになっていることが疑われています。また、ペットの口腔内環境は人と比べ、歯周病になりやすく、なんと0歳から歯周病を発症することが判明しています。

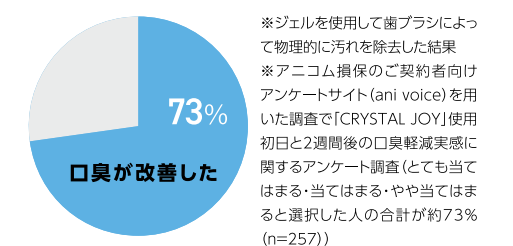
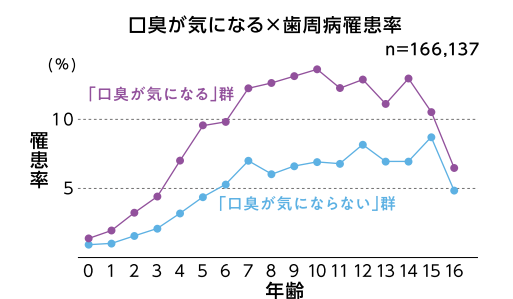
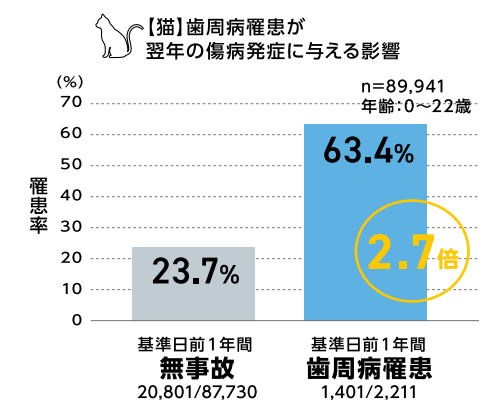
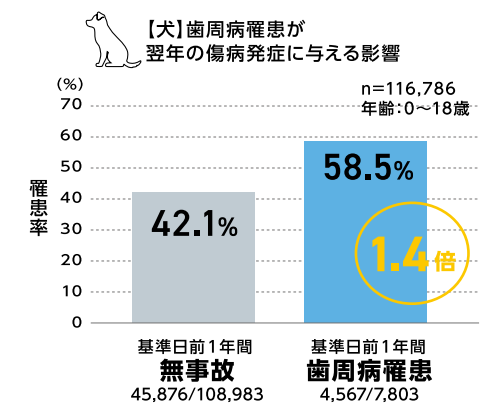


当社のグループ会社である、アニコム損保への年間430万件を超える保険金請求データを分析した結果、歯周病に罹患している犬は健康な犬に比べて、翌年すべての傷病の罹患率が約1.4倍になることがわかっています。また、猫においても同様に、歯周病に罹患している場合には、翌年すべての傷病の罹患率が約2.7倍になることがわかりました。すなわち犬・猫にとっても、「歯周病は万病の元」であり、歯周病予防のためにも日々の歯磨きは重要であるといえます。

また、この歯周病は、口臭との関連性も示唆されており、口臭が気になる犬・猫の方が歯周病に罹患している割合が高く、すなわち、口臭は歯周病の存在証明といえるのです。

このように、歯周病を予防することが、将来の重篤な疾病に罹患するリスクを下げることに繋がることから、アニコムグループでは、革新的な酸化制御技術（MA-T®: Matching Transformation System®）を用いた歯磨きジェル「CRYSTAL JOY」をアース製薬株式会社と共同開発しました。すでに一部の動物病院での販売を開始しており、多くの方にペットの口臭の軽減を実感いただいております。

引き続き、口腔ケアの重要性への啓蒙を進めることで、ペットの健康へのアプローチを推進していきます。



APPROACH 2

腸内ケア戦略

「運命」たる遺伝子は、病気と深く関わっているものの、

全てを決めるわけではありません。

現代のペットを巡る環境下において、ペットの健康に影響を与え得る

「後天的かつ直接的な要因」の中でも、影響力の高い項目の一つが、

腸内ケアであると考えています。

たとえ遺伝的に弱くとも食事を通じた腸内ケアを

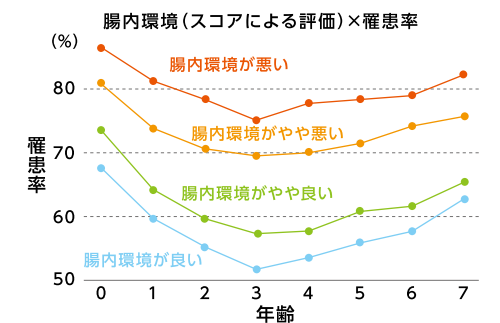
することによって健康度は高められます。

免疫力のバロメーターである腸内環境

ペットを含めたあらゆる生命は腸内細菌とともに歩んできた長い歴史があり、多様な食事をとることによる食刺激を通じて腸内細菌の多様性ととも免疫力を高めてきました。

しかしながら、現代のペットは、「総合栄養食」と称して毎日同じ食事を与えられている場合が多く、栄養面では十分でも、食刺激が不足することで、免疫の低下を招き、ひいては各疾患の罹患率を高めてしまうことが起こり得ます。

この免疫は病気から体を守ってくれる重要な機能であることから、ペットの腸内環境の多様性を高めることと病気のなりやすさには密接な関係が認められ、全ての疾病のなりやすさは、腸内環境と相関している（しかも、犬の品種・年齢に関わりなく）ことが分かりました。まさに腸内環境は「免疫力のバロメーター」といえます。



<腸活(お腹健康スコア)区分>

・悪い:スコアが「5～1」の生体・やや悪い:スコアが「0～4」の生体
・やや良い:スコアが「5～9」の生体・良い:スコアが「10～15」の生体
<条件>

・2018年12月以降にどうぶつ健活を実施した生体のうち。
・契約始期日が2021年3月以降～2023年12月の生体。

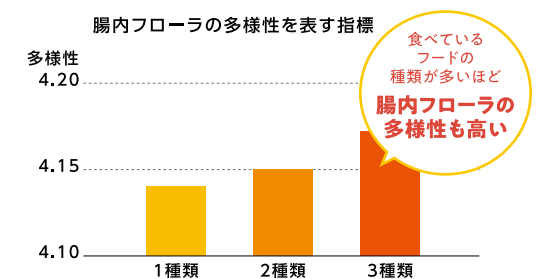
※誤飲骨折を罹患した生体を含む。

腸内ケアフード

人間を含む全ての生命は、季節や天気などに合わせて異なる食材を取り入れることで免疫を高め、日々変化する環境に対応しています。また、様々な食材を取り入れることは腸内細菌の多様性を高めることに繋がり、その結果、免疫力を向上させることができます。

アニコムグループでは、ペットの腸内細菌の多様性を高めるために、日々の食生活における食刺激の向上を実現する「7Days Food」を開発いたしました。多彩な香り・味わい・歯ざわり・色等の食刺激は、本来持っている嗅覚・味覚・視覚等を総動員し、腸内免疫を適度に刺激することで、本来持っているべき免疫力を目覚めさせ、ペット本来の免疫力を取り戻すことに繋がります。

また、アニコム損保では、腸内細菌叢検査サービス「どうぶつ健活」は、毎年20万件を超える検査を行っております。引き続き、これらのサービスを通じて、腸から始まる予防サービスを提供してまいります。



※0～3歳の犬に1種類(34,955頭)、2種類(3,292頭)、3種類(290頭)のドライフードを給餌し、腸内フローラの多様性を測定しました。



1日で12品目以上、7日間で55品目以上の食材

APPROACH 3

遺伝ケア戦略

「先天的要因」や「後天的要因」へのアプローチによって
 私たちが目指す“健康”。それでも、全ての病気を完全に防ぐことは難しく、
 中には従来の薬や治療法では治らないものもあります。
 そうした「治らない」と諦めていた病気を決して諦めることなく、
 アニコムグループは「再生医療」という新たな選択肢を提供します。

再生医療の普及を目指して

従来の薬や治療法で治らない病気に対する治療法の選択肢として、幹細胞を用いた「再生医療（細胞治療）」が注目されています。再生医療とは、化学的な成分の薬とは異なり、生きた細胞をそのまま体内に投与して、ケガや病気の治療を行うものです。現在、人の医療だけではなく、獣医療でも新しい治療法として世界中で研究され、実用化されつつあります。

アニコムグループでは、アニコム先進医療研究所において、再生医療の適切な普及・拡大を目的とする「動物再生医療技術研究組合」に加入し、再生医療技術・サービスの開発に取り組むとともに、アニコム損保においては2021年7月から「再生医療協力金制度」をスタートさせ、病気に苦しむペットを減らす取組みを進めながら、再生医療の拡大に貢献しています。



再生医療の一例（アトピー性皮膚炎、12歳/柴）



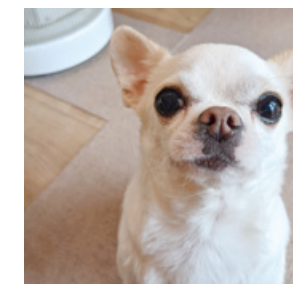
投与前

投与3ヶ月後

再生医療に挑戦した方の声

「MRIを撮ったところ、壊死性白質脳炎と診断され、嚥下困難の様子も見られてきて、絶望感でいっぱいでした。悪化の一途と言われていたのが、再生医療から1ヶ月あまりの今は、ステロイドの量も減り、意識も足腰もしっかりして、散歩を催促したり・坂道もトコトコ上がったり・おもちゃを私のところに持ってきたり…奇跡が起こったようで、その姿を見るたびに涙ぐみます。

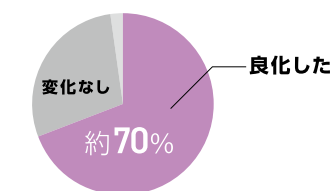
再生医療を犬にもできるようにしてくださった方、私の犬にしてくださった獣医さん、そしてアニコムの皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。私と愛犬の経験が、また次の誰かの希望と励みになると嬉しいです。」



QOL改善による健康寿命の延伸

人もペットも加齢に応じた生活品質の低下は避けられないものです。しかしながら、幹細胞を投与することで、元気を取り戻し、健康な生活を送ることが期待されています。アニコム先進医療研究所では、幹細胞投与がQOL改善にどのような効果を及ぼすかについて調査研究を進めており、既に約70%のペットにQOLの改善が認められています。

【QOL改善のモニター結果】



QOL改善のモニター検証にご参加いただいた犬の飼い主様に対し、幹細胞投与後にヒアリングを行い、回答を得た101件（平均年齢10.7歳）の結果を記載。

※QOLの各項目に記載の頭数は投与前に症状があった頭数。

サステナビリティ経営の推進

アニコムグループは、企業価値の向上と持続可能な社会の実現を目指し、
経済的価値と社会的価値を創造するサステナビリティ経営を志向しています。

サステナビリティ基本方針

アニコムグループは、世界中に「無償の愛」を伝え、平和を取り戻し、維持発展させることをパーパス（存在意義）として掲げています。また、社名でもある「ani(命) + communication(相互理解) = ∞(無限大)」のもと、命あるものがお互いに理解し、ともに一つの目的に向かって力を合わせることで、これまで不可能と思われていたことが可能になるとの経営理念を通して、どうぶつ業界のインフラプレーヤーとして無限大の価値を提供することとしています。

アニコムグループでは、地球環境をはじめとした様々な社会的課題に対して、ペット業界として対応可能なものとしてマテリアリティ（重要課題）を設定し、人・どうぶつ・環境のそれぞれにおける以下の具体的な貢献に向けた取組みを行い、企業価値の向上と持続可能な社会の実現を目指します。



1 どうぶつへの貢献

すべての生命の多様性の尊重とWell-Beingの達成に向け、心と身体の健康、サプライチェーンの透明性確保、動物福祉、災害支援、野生動物保護といった活動に取り組めます。



2 人への貢献

ペットとの共生を通じて人々に生きがいを提供するとともに、地域活性化への貢献や教育機会の公平化等に向けた活動に取り組めます。
また、一人一特許戦略の推進により、グループ社員一人一人の生きた証を社会的な子孫として残し続けます。



3 環境への貢献

あらゆる事業活動において、温室効果ガスの排出量削減、廃棄物の削減と再利用の推進といった、気候変動への対応や生物多様性の保全に向けた活動に取り組めます。

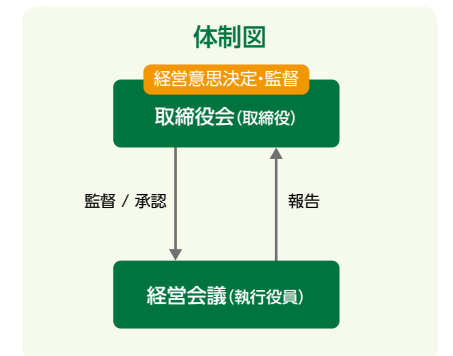
【マテリアリティ】



サステナビリティ推進体制

アニコムグループでは、サステナビリティ経営をグループ全体で横断的に推進するため、経営意思決定機関である取締役会の監督の下、経営に係る意思決定に関する協議の充実及び経営状況管理を目的とする「グループ経営会議」にて、半期に一回程度、サステナビリティに関する取組みの進捗について議論を行い、取締役会へ報告しています。グループ経営会議は当社並びにアニコム損害保険株式会社の常勤取締役及び執行役員、その他の事業子会社の各社長により構成されています。

取締役会は、「グループ経営会議」にて議論された内容の報告を受け、当社グループのサステナビリティ課題への対応方針や実行計画等について議論を行っています。



【バリューチェーンにおけるアニコムのCSV活動(ESG／SDGs対応)】



価値創造を支える基盤

「ERM態勢整備」「コンプライアンス」「情報セキュリティ」「人事・組織管理」「内部監査」「危機管理体制強化」

動物の尊厳保持

動物の尊厳に関する宣言

アニコムグループは、動物に関わる企業として「動物の尊厳」をCSR活動の方針の軸としており、「動物の尊厳に関する宣言」を社内で掲げています。宣言の中では「すべての動物は尊厳をもつこと」「いかなる動物も虐待の対象とはならないこと」などを謳っており、この宣言をもとに、具体的には、動物福祉、災害支援、野生動物保護といった取り組みを実践しています。動物の尊厳保持はグループ人権基本方針においても明記し、グループ全体で動物の尊厳の尊重に関する活動に取り組んでいます。

アニコムグループの取り組み

●全てのどうぶつの健康を目指して

アニコムグループでは、全てのどうぶつが健康で幸せな生活を送れるよう、歯周病予防に着目した口腔ケア、免疫力のパロメーターとされる腸内環境に着目した腸内ケア、遺伝的脆弱性を補完するための遺伝ケアの3つを軸とした、どうぶつを健康にするためのソリューションを提供しています。※詳細は「特集 シナジー創出事業 (P.29)」を参照。

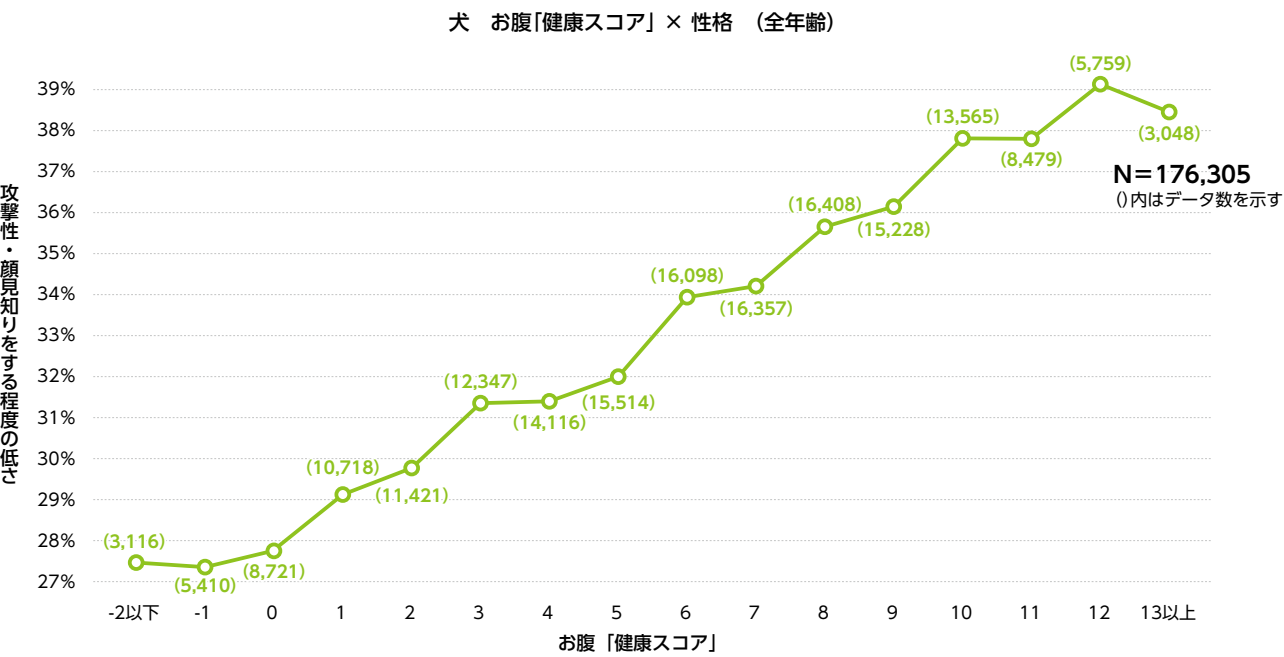
●殺処分ゼロに向けて

環境省の調査によると、迷子や野良犬・猫の保護、飼育放棄や飼育困難といった理由で行政施設に引き取られ、その後、新たな飼い主を見つけられずに殺処分された犬・猫の数は、2022年で約1.2万頭とされています。

アニコムグループでは、そのようなどうぶつを"生まないこと"がもっとも大切だと考えています。

例えば、飼育放棄に繋がる理由のひとつとして、「攻撃的な性格で言うことを聞かずしつけができない」といったことが一般的に挙げられます。アニコムグループの研究では、お腹の「健康スコア※」が高い犬ほど攻撃性や顔見知りする程度が低い、との相関関係が明らかになってきています。

※健康スコアとは、腸内から検出される細菌の占有率や組み合わせ等をパラメーターとして数値化した、アニコムグループが考案した指標です



どうぶつを健康にすることは、結果として殺処分を減らすことに繋がると考えています。

アニコムグループでは、今後も殺処分されるどうぶつを“生まないこと”を目指して取り組んでいきます。

アニコムグループの取り組み

●シェルター運営

2022年4月から、三重県多気町にあるリゾート施設VISIONにて、どうぶつ保護施設「ani TERRACE (アニテラス)」を運営し、飼い主がいらない犬や猫と新しい飼い主を繋げる活動を行っています。

どうぶつの保護施設というと、「暗い」「さみしい」「かわいそう」といったイメージがつきものですが、ani TERRACEは、「明るい」「あたたかい」「幸せ」な施設をコンセプトにし、元々どうぶつに興味がある方はもちろん、どうぶつに興味がなかった方にも訪れていただける施設を目指しています。

●里親マッチングサイト「hugU」の運営

さまざまな事情から飼えなくなってしまった犬・猫・小動物などのどうぶつと里親希望者を繋げる里親マッチングサイト「hugU (ハグー)」を運営しています。

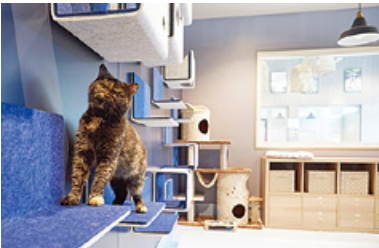
どうぶつと里親希望者がマッチングできる機会をひとつでも多く生みだし、新たな飼い主のもとでどうぶつが幸せに生きていけるようにサポートを続けていくことが、hugUの存在意義です。

●譲渡会の開催支援

1頭でも多くの保護犬猫に家族を見つけてあげたいという想いから、動物愛護団体等が主催する譲渡会に会場提供などの協力を行っています。アニコム損保の各支店やアニコム先進医療研究所の動物病院・ラボ等、ペット同伴可能なグループ施設を用いて、飼い主のいない犬猫に幸せなご縁が繋がるよう、継続的に活動を行っています。

●PAW (Project of Animal Welfare)

どうぶつのよりよい環境を構築するため、動物福祉の向上を目指して取り組みを行っています。2012年度からはグループ会社横断プロジェクトPAW (Project of Animal Welfare) を立ち上げ、動物愛護週間における啓発活動など、動物愛護や動物福祉に資する活動を行っています。



指標・目標

No.	項目	単位	実績				
			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
1	hugU譲渡件数	件	336	1,104	2,377	3,200	3,701
2	譲渡会支援回数	回	11	5	14	22	19
3	保護犬猫譲渡頭数*	頭	—	—	—	18	74

※2022年度は「ani TERRACE」のみの譲渡頭数、2023年度は譲渡会支援での譲渡頭数を含む

人的資本

人材を「資本」として捉え、その価値を最大限に引き出すことで、中長期的な企業価値向上につなげる人的資本経営を目指し、次のような取り組みを行っています。

人材育成方針及び社内環境整備方針

人材育成方針及び社内環境整備方針として「グループ人事管理基本方針」第3条において以下のとおり制定しています。

(基本理念) 第3条

(5) 人材育成・能力開発

- ①グループ各社では、常にオープンで公平な教育機会を提供し、個々の能力や適性を尊重しながら互いに協力し自由に競い合うことで加速度的な成長を遂げることを目的とし、人材育成・能力開発に努める。
- ②グループ各社では、あらゆる状況において、ロール(役割)をプレイ(演技)する組織風土を醸成し、勇気をもって実践することによって自己成長を遂げ、真のプロ人材の育成に努める。

(7) 福利・厚生

グループ各社では、社員とその家族の健康的で豊かな生活を支える一助として、個々の価値観、ライフスタイル、多様なニーズに対応した福利厚生制度の充実に努める。

指標・目標

No.	項目 ^{※1}	実績			目標
		2021年度	2022年度	2023年度	2030年度
1	従業員に占める女性割合	61.2%	60.9%	61.4%	50～60%
2	管理職に占める女性割合 ^{※2}	31.8%	31.2%	33.7%	50～60%
3	男性育休取得率	58.8%	77.8%	68.0%	100%
4	女性育休取得率	100%	96.0%	100%	100%
5	有給取得率 ^{※3}	62.7%	64.6%	75.0%	80%
6	自発的離職率 ^{※4}	12.3%	11.8%	13.4%	10%
7	研修費用(企業総額)	12,350,455円	12,784,247円	14,137,183円	—
8	研修費用(1名当たり平均)	14,581円	14,364円	16,119円	15,000円
9	発明者数	51名 (累計66名)	37名 (累計103名)	24名 (累計127名)	年間60名
10	高齢者・障がい者・子ども ふれあいイベント	—	—	3回	20回
11	こども教育サポート (動物病院体験等参加人数)	—	—	12名	100名

※1. 算定対象は当社及び連結子会社(2022年度以前の「No.5 有給取得率」を除く)
※2. 管理職の定義は「部下を持つ職務以上の者、並びに部下を持たなくともそれと同等の地位にある者」で「役員」を除く
※3. 2022年度以前の株式会社シムネットを除く
※4. 定年退職等を除く自己都合による退職

人材育成

常にオープンで公平な教育機会を提供する場として「アニコム大学」と称した教育体系を整備しており、階層別に必要なスキルや姿勢を身に着ける研修の他、社員向けの自己研鑽セミナーを実施しています。また、能力開発を目的として戦略的に配置転換や異動を実施するジョブローテーションにより、1つの分野に限定することなく多くの業務に携わることで経営的な視点を持てる人材の育成や、新たなビジネスの創出へと繋げています。

獣医師等の専門人材については、グループ病院間を跨いだ症例検討や手術研修、学会参加費用補助など、真のプロ人材の早期育成を目指した能力開発を推進しています。

アニコム大学

スキルアップ	キャリアアップ	ベーシック
入社後研修 - 新入社員研修 (入社後3週間) - 中途入社者研修 (入社後2週間) - 部門別OJT - 損保険募集人資格受験費用補助 - 新卒OJTトレーナー(SP)制度/後輩育成研修	自己成長支援 - 社内留学制度 360度フィードバック - 目標チャレンジ制度 - ジョブローテーション制度 - 部長会／ 経営会議オブザーブ	基礎研修 - 朝会 (毎週1回実施) - コンプライアンス研修 (年6回実施) - 全社員テスト (月2回実施) - ハラスメント研修 (年2回実施) 
自己研鑽 - E-ラーニング (ベネフィットステーション) - アニコム大学ミニゼミ (旧アニコム大学) - 獣医学会参加費用負担 - 内定者研修 - 損保総研受講費用負担	階層別研修 - フォローアップ研修 (新卒1～3年目対象) - 中堅リーダー育成研修 (選抜) - 次世代マネージャー研修 (選抜) - 新任管理職研修(部長・課長) - 幹部候補生外部研修	

人的資本

全社員一人一特許戦略

サステナビリティを巡る難解な社会的課題を効果的に解決する組織を作っていくために、社員自身の自発的な探求心や使命感をベースに遂行していける仕組みづくりを行っています。これによって、様々な個性を持った多様な人材が自由な発想でかつ、より本気になって業務に取り組むことを可能にし、人間の集合知の力をさらに引き出し得ると考えています。

これを可能にするアニコムグループ独自の仕組みとして、従来の組織とは異なり、職務遂行を通じてなされた個々人の努力やそこで得られた発見等をより個々人の存在と紐づけ、社会に広く認知させ伝達し、社会を豊かにするべく残されていくよう「全社員一人一特許（論文等）戦略」を実行しています。これにより、全社員が、今の時代を共に笑い涙し悩みながらも生き抜いた証を、言わば社会学的な子孫として残していけるようにしていき、個々人の存在についても更に意味を与え得る人材戦略を推進していきます。

VOICE



大越 美江
アニコム損害保険㈱
R&D部

私は個体識別AI※を開発し、特許を取得しました。当社では、スピード感を求められるため、プロジェクトメンバーとのやり取りは頻繁に行われています。また、AIの開発では、学習用データが必要不可欠で、そのデータ収集が最初にぶつかる大きな課題ですが、データを募れば、他部門の社員からも、データを提供いただけるため、非常に心強いです。

開発においては、新しい手法も取り入れながら検討を重ねることが必要です。当社では現状のスキルを活かすだけでなく、より高いスキルを身に付けながら業務に当たれていると感じます。今後は、開発したAIをサービスとしてローンチすることを目指し、社会貢献を実感していきたいです。※特許第7360489号

職場環境の整備

アニコムグループでは、会社と社員が対等な立場に立ち、相互の理解と信頼のもと協力し、会社の健全な発展と社員の社会的・経済的地位の向上を図り、正常な労使関係を保つため、労働関係法令を遵守し、安全かつ健全で働きやすい職場環境を維持しています。

●エンゲージメント調査

従業員の成長実感を高め、アニコムを魅力的でより強い組織にしていくことを目的として、2023年より全従業員を対象とした従業員エンゲージメント調査を実施しています。その結果を分析し、職場環境の改善に活用しています。

●テレワーク制度

在宅型テレワークを導入しています。柔軟な働き方を受容し、更なるワークライフバランス向上を目指した環境づくりに努めています。

●ペットを含む家族のための特別休暇

産休・育休、介護休に加えて、結婚・出産・ファミリーサポート休暇、バースデー休暇（社員本人、2親等以内の家族及び飼育しているペットの誕生月に取得できる休暇）、ペットを新しく迎えたとき、死亡したときに取得するペット慶弔休暇など、ペットを含む「家族」のための制度を大切にしています。

ダイバーシティ＆インクルージョン

アニコムグループでは、経営理念に則り、多様性を尊重した経営を行っています。性別、国籍、人種、職務経験を問わず、能力のある人材がその能力を最大限に発揮し、活躍できる環境の推進に取り組んでいます。

●獣医師等の専門人材の採用

アニコムグループには、獣医師資格を持つ社員が106名在籍し（2024年3月末時点）、日本で最も獣医師が集まる企業の一つです。この専門家集団の利点を生かし、他社にはできない保険引受体制や査定体制の質の向上を図っています。また、獣医師が集まる「信頼感」のブランドを顧客サービスに繋げるため、電話やLINEで獣医師に相談できるサービスなども展開しています。それだけでなく、疾患統計の抽出・分析や、遺伝子や腸内細菌等の研究、論文や学会での発表、専門誌への執筆、獣医師向けセミナーの実施など、専門性を生かして獣医療業界の発展に寄与しています。ほかにも、医学/農学/理学/薬学博士、弁護士、公認会計士、アクチュアリー（保険数理士）、弁理士、データサイエンティスト、デザイナーなど、多種多様な専門家を積極的に採用しています。

●女性活躍推進

「グループ人事管理基本方針」において、性別にこだわることなく、互いに尊重し合い、能力ある人材がその能力を最大限に発揮し活躍できる環境を提供することを定め、女性活躍の推進に取り組んでいます。

管理職における女性の比率は、長期的には、全従業員数における女性従業員比率と同程度を目指します。グループ全体の女性社員の割合は約6割、管理職に占める割合も約3割となっています。（2024年3月末時点）

VOICE



井関 智英子
アニコム損害保険㈱
経営企画部 広報企画課

現在、子育て中のため時短勤務をしていますが、その中でも専門分野であるデザインを活かして業務に取り組んでおり、自発的に動けば活躍できる環境があります。当社では、デザインの重要性が強く認識されています。目に見えない商品である保険をはじめ、動物病院事業やフード事業、またペットイベントにも参加するなど、多様な取り組みを実施しており、その全てでデザインが重視されています。そのように、あらゆる面でデザインが関わることから、デザイナーとして幅広く取り組むことができ、非常にやりがいを感じています。企業の方向性やビジョンを視覚的に伝える統合報告書の制作にも、これまでのデザイン経験を活かして携わっています。

●子育て支援

性別を問わず積極的な育児休業取得を推奨しており、出産を迎えたほぼすべての女性が産休・育休を取得し、半数を超える男性が育休を取得しています。

また、育児休業の延長限度を、法定を超える3歳まで延長可能としています。復職後も、法定を超える、子どもが小学校6年生を修了するまでの間、短時間勤務制度を活用できるようにし、育児と仕事を両立できるよう支援しています。

●障がい者雇用

人事部門が主体となり、積極的に雇用を促進しています。入社後は必要に応じて配属部門に「支援担当者」を配置するメンター制度を採用し、個々の状況に応じた支援体制を構築しています。

人権尊重

人権基本方針

アニコムグループでは、人権基本方針を定め、社内外での人権意識の向上と良好な職場環境の実現に努めています。具体的な取り組みとして、国内法や国際基準に基づく人権規範の遵守、差別やハラスメントの禁止、個人情報の適切な管理などが挙げられます。さらに、人権問題の解決に向け、社内外に窓口を設けた内部通報制度(ホットライン)を設けています。
全文はこちら ▶ (<https://www.anicom.co.jp/company/human-policy/>)

人権デューデリジェンス



人的リスク管理規程において、不公平・不公正により生じるリスク、差別的行為により生じるリスクなどを人的リスクと定義し、防止・軽減のために、社内規程類の策定・改廃や、役職員に考え方を徹底するための教育を実施しています。定期的な点検・モニタリングの結果や、重大な問題発生については、グループリスク管理委員会へ報告のうえ、是正に取り組んでいます。また、当社HP上で必要に応じて関連する情報を開示しています。

当社ビジネスモデルにおける潜在的なリスクと対応策

ステークホルダー	リスク	対応策
お客様	保険契約における差別的扱い	配偶者の範囲拡大
パートナー	保険代理店等の外部委託先での個人情報漏えい、人権問題発生	継続的な監査・指導、内部通報制度の適用
従業員	不公平・不公正、ハラスメント等に起因した人材流出	内部通報制度、配偶者の範囲拡大、人権啓発研修、ハラスメント防止研修

取組み

● 内部通報制度(ホットライン)

ハラスメント等、人権問題の解決に向け、社内外に窓口を設けた内部通報制度(ホットライン)を設け、役職員がより働きやすい職場環境を実現するよう努めています。なお、退職者及び当社グループと契約関係にある事業者の労働者も利用可能です。

● 配偶者の範囲拡大

アニコム損保のペット保険の約款では、「被保険者」に含まれる「本人の配偶者」について、事実婚関係や同性のパートナーも含めることを明記しています。また、就業規則においても、特別休暇の対象となる配偶者の範囲に同性のパートナーを含めることを明記しています。

気候変動への取組み

TCFD提言への対応

昨今、世界では気候変動をはじめとする環境課題が深刻化しています。日本国内においても、異常気象による大規模な自然災害が多発するなど、今や気候変動は最も重要な社会課題の1つとなっています。

このような中、ペット保険事業を主たる事業とする当社グループにおいては、自然災害を補償していないことから、他の損害保険会社のような損害の発生は想定されておらず、気候変動が直接的にアニコムグループの事業活動に及ぼす影響は限定的であると認識しています。

一方で、気候変動への対応は持続可能な社会の実現に不可欠であると認識しており、アニコムグループとしても取り組むべき課題であると捉えています。2022年6月に制定した「サステナビリティ基本方針」においても、重点課題として「環境への貢献」を位置づけており、温室効果ガスの排出量削減、廃棄物の削減と再利用の推進といった、気候変動への対応や生物多様性の保全に向けた活動に取り組んでいます。

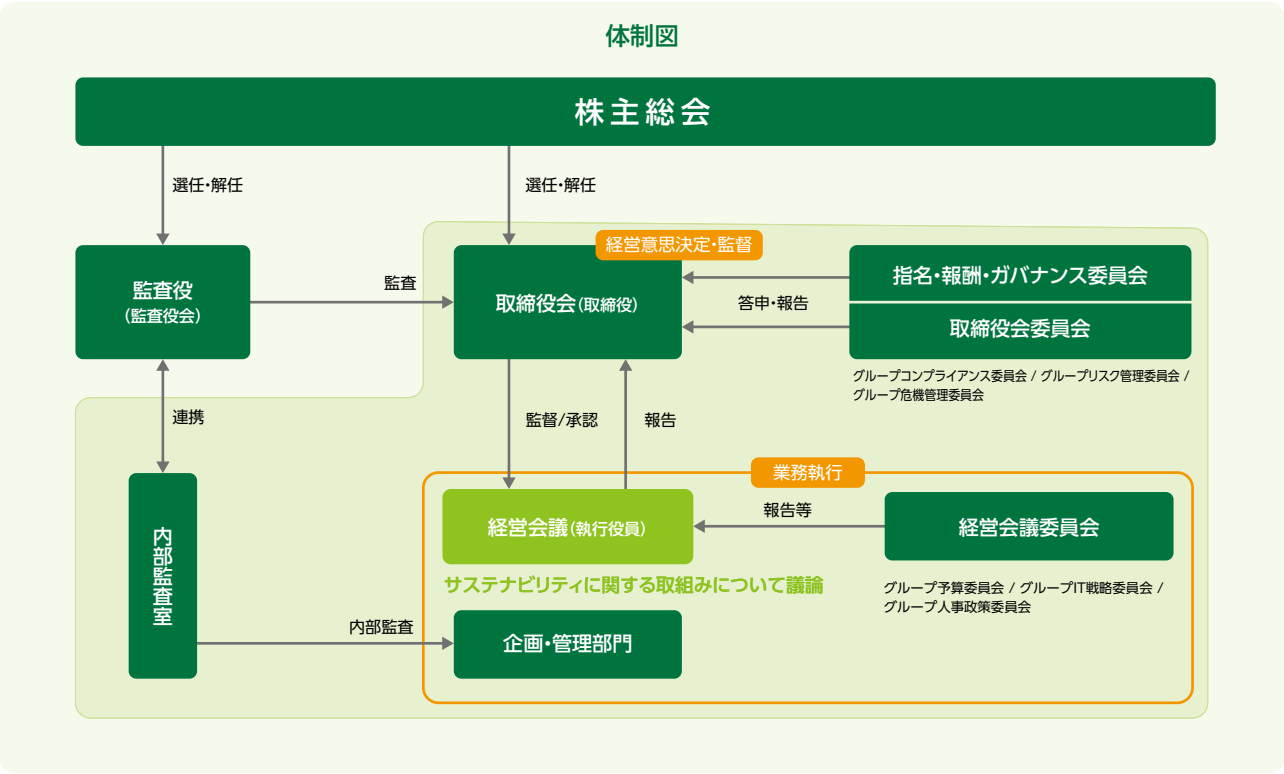
2023年4月には、TCFD(Task Force on Climate-related Financial Disclosures:気候関連財務情報開示タスクフォース)提言への賛同を表明しました。TCFD提言に基づく開示を行うことは、気候変動に対する当社の取組みを推進するために有益であると考え、「ガバナンス」「戦略」「リスクマネジメント」「指標と目標」の4項目での開示対応を行っています。

①ガバナンス

気候変動に関するガバナンスについては、サステナビリティ推進におけるガバナンスと一体で管理しています。

アニコムグループでは、サステナビリティ経営をグループ全体で横断的に推進するため、経営意思決定機関である取締役会の監督の下、業務執行を担うグループ会社の取締役及び執行役員等で構成される「グループ経営会議」にて、半期に一回程度、サステナビリティに関する取組みの進捗について議論を行い、取締役会へ報告しています。

取締役会は、「グループ経営会議」にて議論された内容の報告を受け、アニコムグループの環境課題への対応方針や実行計画等について議論を行っています。



②戦略

気候変動リスクの顕在化に伴う外部環境や事業環境の変化を想定し、リスク事象を洗い出すことで、アニコムグループへの影響を特定・評価しています。アニコムグループの事業に対する主な気候変動リスク・機会は以下の通りです。

	種 類	想定される気候変動リスク・機会の当社グループへの影響
移行リスク	政策・法規制	温室効果ガス排出抑制の政策導入・規制強化によるエネルギーコスト増加
	評判	低炭素への取り組みが不十分なことによるレピュテーションの低下
物理リスク	急性	自然災害による当社グループの事業拠点への被害 自然災害の増加による保険金増加
	慢性	ペットの健康リスク増加による損害率上昇、収益力低下
機会	市場	ペットの健康リスク増加によるペット保険の需要増加、口腔ケア等の健康促進事業の需要増加
	製品/サービス	災害時のペット同伴避難、災害地区のサポート、ペットの防災関連サービスといった新商品の提供

③リスクマネジメント

ペット保険事業を主たる事業とするアニコムグループにおいては、自然災害を補償していないことから、他の損害保険会社のような損害の発生は想定されておらず、気候変動が直接的にアニコムグループの事業活動に及ぼす影響は限定的であると認識しています。そのうえで、気候変動に関するリスクについては、サステナビリティ推進におけるリスク管理と一体で管理しています。

アニコムグループでは、「グループリスク管理基本方針」を制定し、アニコムグループの経営に影響を及ぼしうるリスクの予見・コントロールに努めるとともに、サステナビリティに関して特に環境変動を想定した応答活動を常に準備し、不測の事態にあってもサービスや商品の品質を維持し、事業継続ができるように、リスク管理体制の構築に努めています。また、リスク管理に関する会議体として「グループリスク管理委員会」を設置しており、サステナビリティに関する取り組みを含むグループの個別リスク管理の状況及び統合的に評価したリスクの状況等に関して議論を行い、取締役会へ報告等を行うことで、経営におけるリスク管理等の推進を図っています。

また、「グループ倫理規範」において、サステナビリティを追求するためにはリスク管理体制の構築及び内部統制の整備が必要不可欠であり、最善を尽くさなければならないことを明記しています。アニコムグループが保有するリスクを正しく認識するため、エマージングリスク（将来新たに発現し、アニコムグループの経営に大きな影響を及ぼす可能性のあるリスク）も含めたリスクの概要を網羅的に洗い出し、サステナビリティに関するリスクを含めたリスク・プロファイルを定期的に作成しています。

④指標と目標

アニコムグループではパリ協定の実現を目指し、温室効果ガスの削減に取り組んでいます。気候関連リスク・機会の管理に用いる指標として、Scope1+2の実質温室効果ガス排出量を指標として定め、開示しています。

また、「中期経営計画2022-2024」の期間に合わせ、Scope1+2実質温室効果ガス排出量について、2020年度を基準年度として2023年度に50%、2024年度に100%削減を目標として設定しています。また、今後はScope3についても算出対象の特定、排出量算出及び開示に取組み、2030年までに算出対象のScope3を含めた総排出量を2020年度と比較して最低50%削減、2050年までのカーボンニュートラル達成を目指します。

	単位	2020年度 (基準年度)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度 (目標)
Scope1+2 GHG排出量	t-CO ₂	824	1,050	1,225	271	0

- (注) 1. 算定対象は当社及び連結子会社としています。
2. データ収集体制が整っていない一部のグループ動物病院については、2022年度までは算定対象から除外、2023年度から病院規模別の平均排出量を算入しています。
3. 6.5ガスは算定対象外としています。
4. 環境省・経済産業省が公表する電気事業者ごとの「調整後排出係数」を用いて算出しています。
5. 2023年度は非化石証書を購入することでScope2の再エネ比率100%を達成しました。

その他の取り組み

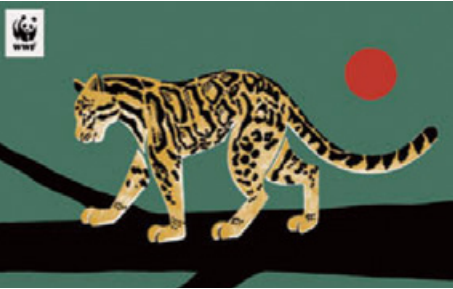
循環型農業

アニコムグループの株式会社フローエンスでは、元気で健康な犬・猫を育てるため、また、犬・猫にも食の楽しみを感じてもらうために、食のレパートリーを増やすことを大切に考えています。
無農薬かつ新鮮な食品を安定的に与えられるよう、ブリーディング場内での循環型農業に実験的に取り組んでいます。



野生動物保護

アニコムグループは、一緒に暮らしているペットを思う気持ちも、野生動物や自然環境を思う気持ちも同じ「命」を思うことと考える、環境保全に取り組む公益財団法人「WWF」の活動を支援しています。「野生ネコの王国キャンペーン」や「WITH STAMP キャンペーン」等の活動を応援した他、社内セミナーやオウンドメディアを通じて、活動を周知しています。



災害支援

日本は災害大国といわれ、自然災害が私たちの生活に甚大な被害をおよぼすリスクが数多く存在します。そうした中で、アニコムグループではペットとその飼い主を中心に、災害支援を行っています。具体的には、飼い主が災害に備えて知っておきたい様々な情報を学べるサイトの運営や防災セミナーの開催、災害時のどうぶつ診療車派遣などを行っています。

